



ササユリ

1、2020 年度作業報告一3

今年の作業ではQ・R地点の旧水田を復元する作業が順調に進んでいます。バックホーによる抜根作業は当初2月1～3日の3日間で行う予定でしたが、1日延長して4日（木）まで行いました。延長したのは木道が埋まりネザサが繁茂して水が流れなくなった水路を掘り出して復元する作業を行うためです。

1) バックホーによる作業

バックホーによる作業は木の抜根とネザサの根の層の除去（下左写真）と水田の畔を復元すること（下右写真）が主な内容でした。水田の畔はバケットの幅程度でやや幅広です。本来の水田は石垣が組まれ、幅の狭い畔が造られていましたが、水田としての景観を復元することが目的ではないので、バックホーで作業しやすいようにやや幅が広く、かつ多様な微環境を創出するため、水田に接する内側の法面を斜めに緩やかにしました。



抜根作業（2021年2月2日）



水田の畔の復元（2021年2月4日）

抜根作業は旧水田面ごとに下から進めましたが、ほぼ全面に渡って木の根とネザサの根が覆っていました。掘り取った根はその場で潰してバケットを何度も振って土（埋土種子）を落としましたが、土質によって土の残り方が大きく異なっています（下写真）。砂質の場合



砂質の土の根（土がなくヒゲ根が見える）



粘質の土の根（粘質の土が残っている）

合は土がきれいに落ちて細かなヒゲ根が見えるようになりますが、粘質の土の場合、その場で潰して振り落としても完全には取り除けません。

抜根した根は最終的にはR地点北東隅に積み重ねて仮置きしてあります。この根の山からも湿生植物が発芽してくると予想しています。

2) Q・R地点全体

下写真はバックホーによる抜根作業直後の状態をドローンで撮影したものです。Q・R地点を真上から見た写真ですが、左から縦長の旧水田が5区画連なっています。左端の区画は下半分ほどが休憩スペースになっており、コンクリートのベンチが設置してあります。その上（北側）の楕円形に囲まれたところは土手を造って池（水を張った旧水田）に復元したところです。

地形は画面下側と右側が高くなっており、上と左側に向かって低くなっています。長方形区画の上側には小さな区画の水田が3段続いており、手前より一段低くなっています。この小さな区画は石垣が崩れかなり壊れている状態です。この区画の上には水路が通っており、一段低くなっていますが、大雨のたびに溢れて水の流れが変わり小さな区画の水田を壊してしまったようです。この部分は抜根のみで現状を維持し、水田の状態には復元していません。手前側の大きな区画は畔を造り直し水が溜まるようにしてあります。

左上の楕円形は常時冠水して最も深い池に、他の長方形区画の上側は大小の池状になり、その手前は湿地、さらに手前（下側）は草地になると予想しています。



Q・R地点全体（2021年2月4日）

3) R地点

R地点は大規模な水田が3段になっています。次頁上写真は最下段の北側部分で、抜根後に水が溜まるように土手（畔）を造りました。手前のロープのところから左側の奥に向かってコの字状に土手を造ってあります。ロープの手前にはベンチが置いてあり、休憩ス

ペースとして利用しているところだ。

左側の土手のさらに左側には抜根した木の根を仮置きしてあります。

右中写真は右側の旧水田部分から水を引き入れた状態です。上の段の水田の畔の一部を切り入水口にしました。奥の幅が30 cm程、手前には幅10 cm程の2本の水口があります（右下写真）。水を入れる前は池には全く水がありませんでしたが、一日で満水になりました。

ここでは旧水田の北側1/2程を一年中常に水を入れた状態の水田（池）として復元しました。今後、安定すれば水生昆虫や水路から魚が入ってくると予想しています。

葦毛湿原では、かつては小さな池がいくつもあったようですが、埋まってしまう池状の水溜りはほとんど見られなくなりました。近年はトンボも少なくなり、アズマヒキガエルの産卵数も目立って減っていますが、様々な生物が復活してくれることを期待しています。

次頁の写真はR地点の3段の水田の最上段です。左は抜根後の状態で、右は水を引き入れた後の状態です。手前から奥に向かって低くなっており、奥の方に水が溜まっています。手前はあまり水が入らないようで草地に、奥には小さな池ができ、手前は湿地に戻ると予想



R地点北東隅抜根後入水前（底には凹凸を残しています）



入水後の池（水を張った水田として復元）



入水口（上の水田の畔を切っている）



抜根後入水前の旧水田（2021年2月7日） **抜根後入水後の旧水田（2021年2月17日）**
 しています。写真の左側には中段の水田がありますが、この部分は土がやや砂質で水が溜まりにくく、また、水も入りにくい高い位置にあるので草地になると予想しています。

3) Q地点

Q地点は写真手前側には自然地形の緩やかな斜面、奥に旧水田部分があります（右写真）。

左側に見える木道は抜根作業前にはほぼ埋まった状態でした。かつては、この木道の下を水が流れていたもので、今回の作業で水が流れるようにしました。

右下写真の左側手前の木道の下を通り水が流れるようになりました。奥に向かって流れていきますが、緩やかな斜面部分は所々に小さな水溜まりを造りながら広く面的に流れ下っていきます。

バックホーによる抜根作業では、キャタピラの跡を消す程度で地面を均すという作業は行っていない。ある程度の凹凸は小さな環境の違いを生み出し生物多様性に正の影響があると考えています。

（次号へ続く）



Q地点北部抜根後入水前（2021年2月7日）



入水後の状況（2021年2月17日）